

健診検査センターニュース

No.474号

運営委員会より

8月16日（木）平成24年度第5回の委員会を開催いたしました。

伊藤丈雄会長より、市民の方の健康を守る上で健康診断は重要であり、受診率の向上が強く求められている。今年の特健診受診率の目標は30%以上であり、日々忙しい診療の中大変ご苦勞をおかけするとは思いますが、市民の方への受診勧奨をよろしくお願ひしたいとの挨拶がありました。

1. 特定健診7月の実施件数は、下記のとおりでした。

	7月受診数（前年比）	累計（前年比）	函館市国保受診率 7月現在 5.57% / 目標 30.0% 達成率：18.6%
函館市国保	1,377人（+228）	3,220人（+ 63）	
後期高齢者	406人（+ 85）	851人（+ 70）	
その他	210人（+ 37）	500人（+ 61）	
合計	1,993人（+350）	4,571人（+ 194）	

個別健診実施機関：96施設／登録機関110

○ 7月は、未受診者への電話勧奨もあり、前年より少なかった6月を補う受診者数となりました。受診率向上を目指し函館市では、8月20日より約3万8千人の未受診者に対して受診案内を送付するとしています。各医療機関様におかれましても受診勧奨にご協力戴きますようお願い申し上げます。

2. 24年7月の健診検査事業収入は、下記のとおりでした。

	7月（前年同月比）	24年度累計（前年比）
一般検査収入	105.2 %	104.3 %
健診収入	61.2 %	87.5 %
合計	81.0 %	96.9 %

3. その他

- ① 職員2名の退職が報告されました。
- ② 平成24年度の「働く世代への大腸がん検診推進事業」と「肝炎ウイルス検診個別勧奨事業」の実施について報告がありました。
- ③ 平成25年度検診車の整備事業に関する日本宝くじ協会への助成金申請について報告がありました。

《 ちょっと一言 》

また、やっちゃいました・・・。

締め切りを1日遅れて原稿書いてます・・・。

なにせ、こう暑い日が続くと、ついつい好きでもないビールを飲み始めて、それから、いつものアルコールサイクルにはまって寝不足の日々が続いてしまっております・・・。今日はこの原稿のためにビール1杯でやめました！！

・・・と、威張ってもいられません、遅れてすみませんでした・・・。

さてさて、少し面白い？記事を発見したのでご紹介いたします。

「医療機関のHP規制 厚生省が指針」というタイトルの記事だったんですが、「実績強調は不適切」という内容です。

脱毛や豊胸手術などの美容医療のホームページ（HP）で受診をあおる表現が目立つため、厚生労働省は「手術件数日本一」などの実績を強調する表示は控えるよう求める指針をまとめ、美容以外の医療機関も対象で、今月中にも関係機関に通知する、というのですが、指針では、優位性を強調する「日本一」「県内一」や「最高」のほか、「芸能プロダクションと提携」「著名人も推薦」などの表現は、他の医療機関より著しく優良と思わせてしまうとして、事実でも不適切事例とする。

このほか「キャンペーン実施中」「治療し放題プラン」も過度に受診をあおり「どんな手術も必ず成功」は医学的に困難で虚偽事項に当たるとして掲載すべきでないとしている。

当たり前といえば当たりの様な気がしますが、でも、僕はこんな内容のHP見た事ないので、実際あるんでしょうね・・・？

「治療し放題プラン」なんて、まるで携帯電話ですよね・・・（笑）

利用者がネット上で自ら検索・閲覧するHPは、広告ではなく情報提供として規制の対象外だったらしいです。

この記事も決して笑える物ではないかも知れませんが、消費増税や日韓中の緊張状態が続いている今日この頃のニュースに比べたら、少しは和ませてくれる内容に思えてしまいます。

今年は短かったですけど、充分すぎる程暑い夏も、もう終わり。太陽に浴びる事がパワーの源と思うくらい、ギンギンギラギラの天気が大好きな私にとっては、少しどころではなく、かなり寂しい季節となって行きます。この夏に充電したパワーを温存しながら、これまた短い秋と長い長い冬を乗り越える準備をそろそろしなくてはと思っています。

では、今回はこの辺で・・・。

サワディカップ！！

（文責 広報部 平山繁樹）

GBS 選択分離用培地使用のお知らせ

平素より当センターをご利用頂きまして、誠にありがとうございます。

さてこの度、B群溶血性連鎖球菌（GBS）の検出率を向上させるためCDCガイドラインに準拠した方法を取り入れ、受託することとなりましたのでお知らせいたします。何卒、ご利用賜りますようお願い申し上げます。

開始日：平成24年9月3日（月）依頼受付分より

開始項目：5469 B群溶血性連鎖球菌（GBS）

依頼方法	一般細菌検査依頼書の備考欄に、5469「GBS」とご記入ください。なお、「GBS」は目的菌となりますので検体採取部位における培養同定検査の依頼が合わせて必要となります。また「GBS」以外の一般細菌の培養同定検査が必要な場合には、5431「一般細菌」も目的菌として選択してください。
使用培地	ポアメディア GBS 寒天培地・5%羊血液寒天培地
採取容器	それぞれの検体に適した採取容器をご使用ください。
保存方法	検体の乾燥を防ぎ、冷蔵保存
所要日数	3～5日
実施料 (判断料)	それぞれの検体採取部位における細菌培養同定検査「D018-1～5」（微生物学的検査 150点） ※なお、料金につきましては、GBS 選択分離用培地料として200円を加算して請求させていただきます。

臨床的意義：

B群溶血性連鎖球菌（GBS*）は妊婦の膣又は直腸に10%～30%^{1~3)}保菌されています。保菌妊婦から新生児に垂直感染した場合には、死亡あるいは髄膜炎等の重篤な経過を辿ることが知られています。

米国では、CDC（米国疾病予防管理センター）が周産期の感染対策として、1996年にGBS感染予防のためのガイドラインを作成し、2002年及び2010年に改訂しました⁴⁾。GBSスクリーニングとその予防がルーチン化されて以降、新生児GBS感染症数は出生数1,000人あたり1.7人から0.34～0.37人に減少し、その有用性が示されています。

日本においては、2008年に日本産科婦人科学会および日本産婦人科医会より産婦人科診療ガイドラインが発行され、GBS保菌診断の取扱いに関して「妊娠33～37週の妊婦を対象としたスクリーニング試験を推奨する」と記載されています⁵⁾。

* GBS：Group B Streptococcus

【参考文献】

- 1) Anthony BF, et al: J.Infect.Dis., 137: 524-530, 1978.
- 2) 寺久保 繁美, 他: 感染症学雑誌, 77: 121-126, 2003.
- 3) 保科 清, 他: 産婦人科の実際, 55: 491-495, 2006.
- 4) CDC: MMWR, 59: RR-10, 2010.
- 5) 日本産科婦人科学会, 日本産婦人科学会: 産婦人科診療ガイドライン-産科編 2011, 239-241, 2011.

新規実施項目のお知らせ

平素より当センターをご利用頂きまして、誠にありがとうございます。

さてこの度、下記の検査項目を外部委託項目として新規受託することとなりましたので、お知らせいたします。何卒、ご利用賜りますようお願い申し上げます。

開始日：平成24年8月1日（水）より開始

開始項目：3434 ベプリジル

依頼方法	総合検査依頼書の備考欄に、「ベプリジル」とご記入ください。
検査方法	HPLC
採取容器 (採取量)	㊄ ヘパリン入り ★ ¹ (全血 3ml)
保存方法 (安定性)	冷蔵 (21日)
基準値	250 ~ 800 (ng/mL)
所要日数	5 ~ 11日
採血時刻	投与後3時間 (Peak値) ★ ²
保険算定	特定薬剤治療管理料 (B001の2) ★ ³
備考	(製品名、薬剤名等) ベプリコール

★¹ 採血容器についての注意事項

血清分離剤入り容器の使用は避けてください。薬物検査において、測定値に影響を及ぼす場合があります。

★² 採血時刻についての注意事項

1. TDM（血中薬物濃度モニター）における採血時間です。
2. 連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3. 中毒時はPeak濃度も測定する必要があります。
4. 標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われれます。

★³ 特定薬剤治療管理料を算定できる不整脈用剤とはプロカインアミド、N-アセチルプロカインアミド、ジソピラミド、キニジン、アプリンジン、リドカイン、ピルジカイニド塩酸塩、プロパフェノン、メキシレチン、フレカイニド、シベンゾリンコハク酸塩、ピルメノール、アミオダロン、ソタロール酸塩酸及びベプリジル酸塩酸をいう。

● ベプリジル：

抗不整脈薬は、有効治療濃度域が狭く、作用機序が複雑で薬理効果には個人差があることから、治療にあたり、血中濃度を測定して計画的な管理を行う「特定薬剤治療管理料」が診療報酬として認められています。

本年4月より、この特定薬剤治療管理料に「ベプリジル酸塩酸」が追加されました。ベプリジル（商品名：ベプリコール）は、複数の心筋細胞のチャネルを抑制する作用をもち、頻脈性不整脈の治療薬として広く使用されています。

特徴として非線形の薬物動態*を示すため、副作用につながる予期せぬ血中濃度の上昇に注意が必要です。注意すべき重篤な副作用は、QT 延長や心室頻拍（torsades de pointes を含む）、間質性肺炎などが報告されています。また、半減期が長く、定常状態に達するまで通常3週間かかるとされていること、代謝酵素の影響などにより薬物体内動態の個人差が大きいなどの特徴が挙げられます。

ベプリジルの有効性を確保しつつ、副作用を回避するために、診察・心電図検査に加えてベプリジル血中濃度測定が、有効な治療管理の情報となります。

*投与量と血中濃度が比例関係にない薬物動態

検査受託再開のお知らせ

平素より当センターをご利用頂きまして、誠にありがとうございます。

この度、健診検査センターニュース No.471 にて検査一時受託中止させていただいた下記の検査項目を再開させて頂くことになりましたので、お知らせ致します。

何卒、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

受 託 再 開 日： 平成24年8月7日（火）より再開

受 託 再 開 項 目： 2179 オリゴクロールバンド（等電点電気泳動法）

備 考	外部委託先における検査受託再開のため
-----	--------------------

公益社団法人函館市医師会 函館市医師会健診検査センター
TEL 0138-57-6571・FAX 0138-57-6580
E-mail : info@hma-labo.jp